

事務事業評価シート 平成 29 年度事後評価・決算

平成 31 年 2 月 21 日時点

事務事業名		コード	22400 農業振興事務費	予算科目	会計	款	項	目	事業種別
(2) (幽学の里で米づくり事業)		17	交流の促進	根拠法令	旭市補助金等交付規則	6	1	3	☒ 主な事業 (重点施策) 重3
施策の展開		31	交流事業の促進	戦略事業	148 幽学の里で米作り交流事業				☒ 国土強靱化地域計画
施策の展開				戦略事業					☒ 新市建設計画
									☒ 定住自立圏構想
									☐ 主要事業

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 18 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	・国指定重要文化財である大原幽学ゆかりの水田(幽学の里)での米づくりを中心に都市住民との交流を図る。また、市の観光資源、豊富な農水産物をより多く知ってもらうことで、旭市の認知度を上げるとともに、市のイメージアップを図る。また、継続的な来訪及び市の産品の売り上げ向上による経済効果を狙う。 ・地元生産者が都市部の消費者と交流を図ることで、消費者の求めるニーズの把握、新たな顧客の確保につなげる。 ・事業実施団体は「旭市都市農漁村交流協議会」で、市内の生産者や食育関係などの会員で構成し、会員数は40人。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
遊休農地となっていた大原幽学ゆかりの水田(国指定重要文化財)を活用し、都市部住民との交流を通して、旭市の農水産業・歴史・観光等の発信を行う。	開始から11年目を迎え、参加者も例年予定数に達しており、熟成段階に入っている。単なる米作り交流に限らず、幽学の歴史や観光の発信、食の安全・食育に関するテーマのイベントを平行して実施しているが、重たい影響や安全への配慮により当該事業への参加を見合わせる団体もある。また参加団体において団体統合するなどにより、参加団体数が減少しており、体験農地の約半分の面積が余剰となっており、協議会会員の高齢化が問題となっており、今後は新たな事業展開を模索しながら、新規会員(若手)の加入促進の必要がある。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
現在、受入側の組織「旭市都市農漁村交流協議会」の会員はわずかながら年数人の賛同者が加入しているが、各イベント毎に申し込みに限られる会員は減少傾向にあり、新たな募集をかけるなど協議会自体の体制の強化を図っている。また、事業対象者からは「会員(従事者)の増員(若い生産者、職員のバリエーション)」や「従来のイベント内容の充実」を求める声とともに「参加者を飽きさせない新しいイベントメニューの取り組み、開発が必要な時期」との意見が出ているところであるが、アイデアだけでは実現が難しく、人員や経費の面で調整や課題が難しいのが現状である。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(29年度の決算)		単位:千円	
1,000:幽学の里農水産業体験・交流事業補助金			
② 特定財源の内訳(29年度の決算)		単位:千円	
1.国庫支出金	0		
2.都道府県支出金	0		
3.地方債	0		
4.その他	1,000:地域振興基金繰入金		

事業費	費目内訳	1. 幽学の里で米作り交流事業補助金	千円	1,000	1,000	1,000	1,000	1,090
			千円					
			千円					
			千円					
			千円					
	財源	事業費計 (A)	千円	1,000	1,000	1,000	1,000	1,090
		1. 国庫支出金	千円					
		2. 都道府県支出金	千円					
		3. 地方債	千円					
		4. その他	千円	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	5. 一般財源	千円	0	0	0	0	90	

前年度増減理由	
---------	--

従事職員数	常時	2人	最大	12人	×	10日	=	延べ	120人
-------	----	----	----	-----	---	-----	---	----	------

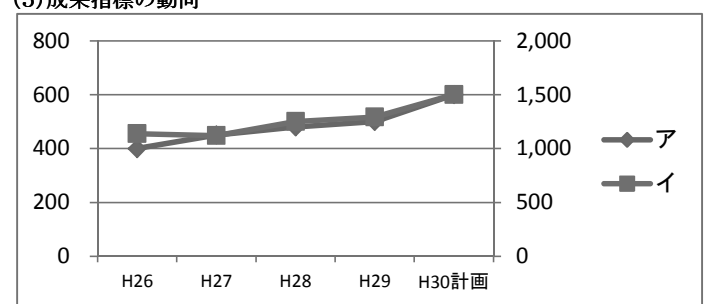
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
手段	29年度実績(29年度に行った主な活動)	イベント実施回数	回	12	14	14	14	14
	・大原幽学での米づくり交流事業を中心に前年度とほぼ同じ内容で活動を展開していく ・旭市と都市部住民の新しい交流展開にも臨むため、研修会を実施し、協議会会員個々の能力向上を図る							
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
目的	対象・意図 ・東京都民、千葉県民、埼玉県民 ・旭市民 ・参加者に「旭の農水産物や食」に対する関心をもってもらう。	旭市の農水産物を購入(消費)した参加者	人	400	450	480	500	600
	対象・意図 ・交流イベント参加者 ・参加者の満足度を向上させ、更なる交流の促進を図る	イベントへの参加延べ人数	人	1,137	1,119	1,252	1,292	1,500

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果		成果向上余地		
施策貢献度	大きい	かなりある	ある程度ある	ほとんどない
	普通			
	小さい			
② コスト削減優先度評価結果		コスト比率		
評価結果	①	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
	②			
	③	(2)		
	④⑤			
	⑥			
	⑦⑧			
	⑨			

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況													☐ 完了		☐ 順調		☒ 概ね順調		☐ 停滞		☐ 実施困難							
評価内容	【コメント】 (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)													参加者の大半が都市部住民であることや屋外でのイベントが主となるため、イベント内容が天候により左右され、雨天時は参加者が減少となる。														
	② 成果の状況													成果指標ア	成果指標イ	成果指標のタイプ	数値増＝成果向上	☐ 向上	☒ 横ばい	☐ 低下	成果動向	比較	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
														成果指標イ	成果指標のタイプ	数値増＝成果向上	☐ 向上	☒ 横ばい	☐ 低下	26年度		27年度	28年度	29年度	30計画			
	【コメント】 (低下の場合、その理由)																		ア	0		50	30	20	100			
																			イ	160		△18	133	40	208			
③ 今年度取組事項 (30年度に取り組む主な事項について記載)													時期		内容					今後の方向性	☐ 拡大 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 廃止・休止	☐ 見直し ☐ その他()					
													毎年継続的に参加している家族のためにイベント内容を工夫し、より一層参加者が満足するような内容を考える。					各イベントごと	市外参加者のリピーターが増えてきているので、イベント回数や所要時間は現状維持のまま、各々のイベント内容を工夫し、参加者等に飽きさせない事業としていく。									